

Tokyo Docs 2025

Tokyo
Docs

会 期：2025年11月4日（火）～7日（金）
 会 場：としま区民センター／あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）
 主 催：（特非）Tokyo Docs／（一社）全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）
 後 援：総務省／経済産業省／東京都／国際交流基金／NHK／民放連／放送批評懇談会／放送人の会／全映協／映文連／豊島区
 特別協力：LINE ヤフー
 協 力：BEAJ／TIFFCOM
 対 象：国内外のドキュメンタリー制作者
 公式サイト URL：https://tokyodocs.jp/

総来場者数（参加数）：486人
 出展社数：20社（※ピッチング参加者数）
 内訳：国内出展社数：10社 海外出展社数：10社
 出展参加国と地域数の国と地域：日本およびアジア各国・地域を中心とする11の国と地域から参加があった。
 ビジネスマッチング
 登録アカウント数：商談ミーティング件数 425件

■開催内容

第15回目を迎えたTokyo Docsは、2025年11月4日（火）から7日（金）までの4日間、豊島区池袋の「としま区民センター」および「あうるすぽっと」を会場として開催した。日本から10企画、アジア各国・地域から10企画の計20企画が参加した。各企画には14分の持ち時間を設け、前半7分で企画概要の説明および映像上映を行い、後半7分で会場に参加した海外ゲスト等との質疑応答を実施した。これにより、国際共同制作を見据えた具体的かつ実践的な意見交換が活発に行われた。

また、11月5日には「ショート・ドキュメンタリー・ショーケース」を実施し、厳選された5作品を上映した。あわせて各制作者によるプレゼンテーションを行い、作品の国際的な発信および次段階への展開を促進した。

さらに、本年度は国際展開についてより深く学ぶ機会を提供するためワークショップを拡充し、その一部を一般公開とすることで、幅広い世代への認知向上を図った。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

本年度は、新たな取り組みとして「アート・カルチャーが日常にあふれるまち」を掲げる豊島区との連携を一層強化した。豊島区民への参加呼びかけを体系的に行い、地域と連動した事業運営の仕組みを構築した。

11月4日に実施したワークショップでは、豊島区にキャンパスを構える立教大学と連携し、これまでTokyo Docsに参加してきた監督による短編ドキュメンタリー作品を上映した。上映後には、立教大学映像身体学科の教授3名と監督によるトークセッションを実施し、作品に込められたテーマや作家自身の内面について、多角的かつ専門的な視点から掘り下げる機会を創出した。大学・地域・国際事業を結びつける新たな学びの場として、継続可能な連携モデルを示す試みとなった。

11月4日に池袋ランチ会、5日にアワードセレモニーを「あうるすぽっと」で開催し、海外ゲストおよびアジア・日本のピッチ参加者を対象としたネットワーキングの場を設けた。ジャンボ餃子やおにぎり、地ビールなど池袋ならではの飲食を提供することで、交流を促進すると同時に地域資源の発信を行った。

